

# 窪田 眞治 (KUBOTA Shinji)

教授 文学修士

専門分野：ドイツ文学

研究キーワード：19世紀ドイツ文学, 聖俗・社会関係, 同調圧

Tel: 0235-25-9162 Fax: 0235-24-1840(総務課)

E-mail: kubota@\*\*\*\*\*



## 【研究シーズ】

### 1. 文学作品に現れる社会関係、「世間」の研究

日本に存在するのは社会ではなく、成文化されない掟に規定された「世間」であり、近代以降の欧米社会にはこの「世間」に相当するものはない、とされる。しかし、19世紀ドイツ文学の作品のなかには「世間」と呼んでも良いような社会関係が描写されていることがある。

この社会関係を明らかにする。共同社会、「世間」の同調圧が個人の思考、行動、振る舞いを規定する力について、あるいは文学作品の中に描写された同調圧について研究し、他者から同調圧として機能する視線について研究しようとするものである。

### 2. 19世紀ドイツ市民悲劇と社会関係の研究

市民階級の成立とともに、市民にふさわしい振る舞い、教養、人間関係が社会の共有概念として構築され、それに伴い、そこからこぼれていく人間の悲劇も生じることになった。このような悲劇を描いた作品を感受するには、読み手にはその社会関係、階級制度を内的に共有することも必要になる。内省すれば、ジレンマを引き起こすやや難しい作業ではあるがそのことに無自覚であって良いはずはない。

また、上記「教養」は市民階級の成立を契機として問題とされ始めるが、教養を持つ人、教養の無い人、と、人間選別の指標として機能する面を持つ。あるいはまた「教養」概念の議論においては、欧州において教養成立の一端を担ってきたユダヤ人が果たしてきた役割が議論のテーマから抜け落ちてしまったりすることがある。今日教養教育を考える上で無視できない問題の起源を市民階級の成立に求めることも可能であろう。

( 1 ~ 2 に関するニーズをお待ちしております。 )

## 【過去の主な相談・共同研究・受託研究等】

## 【メッセージ】

文学研究は実学ではなく、虚学なので、シーズ・ニーズといったカテゴリーにはなじまず、いわばなくても誰も困らないものです。ただし、誰もが自明と信じて疑わない社会の掟、約束事、思考のパターンを内省するのには役立つこともあります。